

<p>大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>		<p>研究科・教育部(専攻)の教育研究上の目的</p> <p>本研究科は、大学教育において追究された「広義の教育」を基礎に、人間発達上の諸問題に関する高度で専門的な教育・研究を行い、地域社会の持続的発展において主導的役割を果たし得る教育人材の養成を目的とする。</p> <p>【発達教育専攻の目的】 人間発達そのものを支援・促進する心理、教育、保育、福祉に関する高次の教育研究を通じ、地域社会の人間発達への支援・促進に関わる諸分野で活躍できる、指導的な教育人材の養成を目的とする。</p> <p>【発達環境専攻の目的】 人間に働きかける上で有効な教育プログラムやカリキュラムの開発等を通じて、より高次の人間発達を実現できる「広義の教育」人材、すなわち健康教育プログラムの開発、環境教育カリキュラムの開発、語学教育及び表現教育に関わる教材コンテンツの開発等の能力を有する教育人材の養成を目的とする。</p>					
<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>【修了認定・学位授与の方針】 人間発達科学研究科は、大学教育において追究された「広義の教育」を基礎に、人間発達上の諸問題に関する高度で専門的な教育・研究を行い、地域社会の持続的発展において主導的役割を果たし得る教育人材の養成を目的としている。</p> <p>本研究科では、この目的に基づいて、幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出す能力を身に付け、本研究科が示す学修成果を上げた者に修士(教育学)学位を授与する。なお、その身に付ける能力を以下のとおり示す。</p>		<p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>【教育課程編成方針】 人間発達科学研究科では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。授業は講義・演習・実験・実習・実技の様々な方法・形態等により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。その評価は各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p> <p>【教育課程実施方針】 人間発達科学研究科は、幅広い分野で指導的役割を果たし得る「広義の教育」人材の養成をめざして、発達教育専攻と発達環境専攻の二つの教育課程を組むものとする。発達教育専攻の教育課程には、「専門科目」、「専攻関連携科目」、「特別研究」の科目区分を置き、発達環境専攻の教育課程には、「基幹科目」、「専門科目」、「専攻関連携科目」、「特別研究」、「自由科目」の科目区分を置く。</p> <p>所属研究室を中心に、学生による能動的な学修を行う。発達教育専攻は、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達上の諸課題(特別支援教育の対象範囲を含む)について、心理、教育、保育、福祉の視点から人間発達への支援・促進に関する専門的能力を修得させる。発達環境専攻は、スポーツ、健康、生活、自然、社会、コミュニケーションの観点から、「広義の教育」の一翼を担う「人間発達環境条件の改善・充実」に関する専門的能力を修得させる。また、両専攻にまたがる学際的な能力等も修得させ、2年次には学位論文の作成と発表を指導する。</p>		<p>アドミッション・ポリシー</p> <p>【入学受入れの方針】 人間発達科学研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、専攻する研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。</p> <p>【入学選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般入試 筆記試験「基礎科目」を課し、研究科で必要とする基礎的能力をはかり、「口述試験」により意欲、理解力、思考の論理性、表現力等を評価し、多様な学生を選抜する。</p> <p>特別入試(社会人を含む推薦入試) 「小論文」を課し、課題に関する知識や関心、理解力、分析力、論旨・主張の明確さと説得力(論理性、具体性)等の観点から評価し、「口述試験」により意欲、理解力、思考の論理性、表現力等を評価し、多様な学生を選抜する。</p> <p>外国人留学生入試 「口述試験」を課し、意欲、理解力、思考の論理性、表現力等を評価し、多様な学生を選抜する。</p>			
<p>【学修成果の到達指標】</p>		<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p>		<p>【求める資質・能力】</p>			
<p>発達教育専攻</p> <p>発達環境専攻</p>		<p>発達教育専攻</p> <p>発達環境専攻</p>		<p>発達教育専攻</p> <p>発達環境専攻</p>			
<p>【学修成果】 教育、心理、身体、コミュニケーション等にわたる学際的知識の修得を通じ、幅広い分野で指導的役割を果たし得る「広義の教育」研究の深化に活用する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 多文化・異文化に関するより高度な知識、社会と自然に関する高次元の知識の理解、リーダーシップ、生涯学習力、より高次の情報収集力、分析力、課題発見力、思考力、プレゼンテーション技術、人間の周囲を取り巻く自然・社会・生活環境に関する知識</p>		<p>【学修内容】 「専門科目」、「専攻関連携科目」、「特別研究」の科目を通して、幼児から高齢者、そして障害支援の現状及び課題を分析し、指導的な立場から解決するために基盤となる情報収集、課題の発見、他者への発信能力を修得する。「基幹科目」では、多世代にわたる人々に分かりやすく教育・指導するための、生涯学習の理念と教育方法に関する専門的能力を修得する。「専攻関連携科目」では、教育の理念と方法、生涯にわたる人間発達の心理的側面の支援、身体的発達のある方、持続可能社会形成に必要なコミュニケーションに関して、両専攻にまたがる学際的な能力を修得させる。「自由科目」では、「基幹科目」、「専門科目」、「専攻関連携科目」、「特別研究」により修得した専門的能力をさらに深化させ、あるいは、広がりをもたせる。</p> <p>【学修方法】 文献講読やICT機器を活用して、幅広く様々な分野の知識を身に付ける。また、講義中の課題に対する文献検索及び討議、研究計画立案における先行研究の調査、課題立案、プレゼンテーションを通して基盤的能力を培う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 授業ポートフォリオやレポート、講義中の課題や研究計画立案における討議、プレゼンテーション及び期末試験によって評価する。</p>		<p>【求める資質・能力】 基礎的・基本的な知識、信頼度の高い情報を収集し、課題を分析する能力、そして、相手に合わせて論理的に情報を伝える能力。</p> <p>【求める資質・能力】 人間の周囲を取り巻く自然・社会・生活環境に関する基礎的・基本的な知識、信頼度の高い情報を収集し、課題を分析する能力。</p>			
<p>【学修成果】 高度で専門的な学識の修得を通じ、人間発達の支援・促進やそのための環境条件の改善・充実に活用する能力を身に付けている。 また、高度な理論と技術を踏まえ、乳幼児期から高齢期に至る各世代の円滑な意思疎通を主導する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教育職員専修免許状、保育士資格、社会福祉士資格、スポーツ指導者資格、認定心理士資格を活用できる能力やICTに関するより高度な技術、語学力、イベント等の企画力、ソーシャルワークスキル</p>		<p>【学修内容】 「専門科目」では、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達上の諸課題(特別支援教育の対象範囲を含む)について、心理、教育、保育、福祉の視点から人間発達の支援・促進に関する専門的能力を修得させる。「特別研究」では、研究主題について課題を設定し、指導教員から研究方法を学びつつ文献検索、調査、実験等によりデータを収集し、それらの結果を分析・考察する能力を体系的に修得させると同時に、研究成果を発表するプレゼンテーション能力を修得させ、学修の集大成として修士論文の完成を目指す。</p> <p>【学修方法】 「専門科目」での講義における討議、実技演習などを通して専門的知識・能力を修得し、修士論文の執筆の過程を通してこれを整理し、学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義・演習での討議、レポート、そして最終的に修士論文の内容審査および口述試験により評価する。</p>		<p>【学修内容】 「専門科目」では、スポーツ、健康、生活、自然、社会、コミュニケーションの観点から、「広義の教育」の一翼を担う「人間発達環境条件の改善・充実」に関する専門的能力を修得する。「特別研究」では、研究主題について課題を設定し、指導教員から研究方法を学びつつ文献検索、調査、実験等によりデータを収集し、それらの結果を分析・考察する能力を体系的に修得させると同時に、研究成果を発表するプレゼンテーション能力を修得させ、学修の集大成として修士論文の完成を目指す。</p> <p>【学修方法】 文献講読や演習での討議等を通して専門的分野の知識・認識を身に付け、修士論文の執筆の過程を通じてこれを整理し、学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義・演習での討議、レポート、プレゼンテーション等から、人間の発達上の諸課題と環境創造に関する専門的な方法論と知識について随時評価し、修士論文の内容審査および口述試験により最終的な評価を行う。</p>		<p>【求める資質・能力】 指導能力を身に付けるための学力的基礎(思考力、想像力、鋭い言語感覚、国語を尊重する態度、多面的・多角的な見方・考え方、表現力、構想力、鑑賞力、基礎体力、基礎的運動技能)を有し、すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを深く理解する能力。</p> <p>【求める資質・能力】 各世代の円滑な意思疎通を主導する能力を身に付けるための学力基盤(思考力、多面的な見方・考え方、構想力、創造力など)。</p>	
<p>【学修成果】 地域社会の最重要資源である人間への発達支援が、個々の人格形成や人生設計への影響を通じて地域社会の再生と振興に貢献することを認識し、責任をもって行動する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教師・指導者としての高い倫理観と責任感、あるいは児童発達支援・障害者福祉の専門職としての社会的役割や職業倫理の高次元の理解</p>		<p>【学修内容】 学内外での教育支援や生活支援のためのボランティア活動に参加し、人に教えたり、支援したりすることが人格形成や人生設計に関わることを自覚し、使命感や責任感を持って行動する能力を修得する。また、「専門科目」、「専攻関連携科目」、「特別研究」の科目で、幼稚園・保育園、特別支援学校、福祉施設で幼児から高齢者、障害児・者と児童発達支援・障害者福祉の専門職として関わる上で必要とされる社会的役割や職業倫理を修得する。課題研究において、文献や資料の扱い方、研究や調査の手法、修士論文の書き方等の学修を通じて、倫理観を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業担当教員及び修士論文の作成過程で指導教員が個別に指導するとともに、富山大学研究者倫理・行動規範を確認する機会を確保する。学内外での教育支援活動や生活支援活動等を企画・運営し、実体験を通して倫理観を培う。そして、現場体験型の演習授業において、高齢者、障害児・者と直接関わることを通じて、児童発達支援・障害者福祉の専門職としての社会的役割や職業倫理を修得する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 演習における実技、活動報告のプレゼンテーション、レポートにより評価する。</p>		<p>【学修内容】 教育支援や生活支援に関わる内容の講義や演習を通して問題の所在を理解すると共に、学内外での教育支援・生活支援の活動調査やボランティア活動等に参加し、人に教えたり、人を支援したりすることが人格形成や人生設計に関わることを自覚して、使命感や責任感を持って行動する能力を修得する。課題研究において、文献や資料の扱い方、研究や調査の手法、修士論文の書き方等の学修を通じて、倫理観を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業担当教員及び修士論文の作成過程で指導教員が個別に指導するとともに、富山大学研究者倫理・行動規範を確認する機会を確保する。学内外での教育支援活動や生活支援活動等の調査や企画・運営に関わり、実体験を通して倫理観を培う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義や演習におけるプレゼンテーション、レポート等により評価する。</p>		<p>【求める資質・能力】 社会の発展に寄与する態度を養うために必要な「公共心」や「倫理観」、そして、すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを深く理解する能力。</p>	
<p>【学修成果】 地域社会の持続的発展に資する人間について、その発達のあり方を深く考究し、発達を支援するための指導法や教材の開発を主導する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 より高度な情報収集力、分析力、課題発見力、思考力、ICT活用技術力、外国語運用能力、プレゼンテーション技術、表現力、個々に応じた児童発達・障害者福祉の計画立案・支援能力</p>		<p>【学修内容】 人を教えたり、支援したりする人材をめざす学生のための実践科目や、現代社会の複雑化する諸問題を解決できるようなプロジェクトを遂行する形式の授業科目を通して、個性や解決能力を活かす指導法や教材について論理的に思考して解決し、発信する能力を修得する。また、すべての人が自立し、社会参加するために必要な力を培うためには、一人一人の能力や特性を把握し、適切な指導および支援を行うことが必要となるという観点から、さまざまな発達段階、障害に応じた支援計画、福祉計画の立案を行うことで、個々に応じた児童発達・障害者福祉の計画立案、支援能力を修得する。</p> <p>【学修方法】 問題解決型の授業で得た知見を基に、ボランティア活動、インターンシップ等の機会を利用しながら、実社会で求められている問題を発見・解決し、発信する活動を通じて創造力を培い、演習を通して、対象者のアセスメント、及び結果分析と支援プログラムの立案、実施、評価方法を修得する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答やレポート、演習における実技、期末試験で評価する。</p>		<p>【学修内容】 現代社会の複雑化する諸問題を考察する授業科目や、こうした問題を解決するプロジェクトを検討する形式の授業科目を通して、社会の持続的発展を促す政策の在り方や、そうした発展に資する人間を育てる方策について論理的に思考し、発信する能力を修得する。</p> <p>【学修方法】 主に問題解決型の授業で得た知見を基に、実社会で求められている問題を発見・解決し、発信する活動を通じて、創造力を培う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答やレポート、演習でのプレゼンテーション、期末試験で評価する。</p>		<p>【求める資質・能力】 目的に応じて情報や考え等を正確に理解したり表現したりする能力、対象者の視点で生活や環境を捉える他者理解力。</p> <p>【求める資質・能力】 目的に応じて情報や考え等を正確に理解し表現する能力。</p>	